柃

爲手繰、〇略下

〔萬葉集三雜歌〕大伴坂上郎女祭神歌一首幷短歌

久堅之天原從生來神之命奥山乃賢木之枝爾白香付木綿取付而齊戸乎忌穿居、〇略下

〔古今和歌集二十大歌所〕神あそびのうた　とりもの、うた

霜やたびおけどかれせぬさかきばのたちさかゆべき神のきねかも

〔倭名類聚抄二十木〕柃　玉篇云、柃音零、一音冷、漢語抄、比佐加木、似荆可作染灰者也、

〔箋注倭名類聚抄十木〕今本玉篇云、力丁力井二切、按力丁在平聲十五青、與音令合、力井在上聲四十靜、冷在上聲四十一迴、其音不同、此以冷音柃恐誤、下總本令作零、廣本同、並與廣韵合、〇略中柃灰見染色具、按、相模俗呼柃爲阿久柴、以燒葉入染用也、

〔大和本草十二雜木〕柃　順和名比佐加木、西土ノ民俗小柴ト云、葉ハサヽン花ニ似テ黑キ實ナル、玉篇曰、柃似荆可作染灰者也、今俗ヒサヽキト云、其灰汁ヲ用テ布ヲ染ム黃色ナリ、本草諸書ニヲヒテ未見之、一種別ニヒサヽキト云小樹アリ、低小叢生、是亦柃ニ似タリ、葉ハ柃ヨリ少薄シ、其嫩葉鮮紅如火、其色甚好可玩色如火、小木故ヒサヽキト云、ヒハ火サヽハ小也、

〔和漢三才圖會八十四灌木〕柃　音零　和名比佐加木、俗云比佐々木、訛云比婆々古、〇中略　矮榊略言乎、

按、柃木高二三尺、葉略似茶葉而狹長、有鋸齒、開花最細小淡白甚臭、隨結實生於葉本杈、每二顆細小黑色、其木葉爲灰、染家必用之灰汁也、蓋此非榊之屬、山谷巖石間多有之、略似榊而矮、故和名之、

〔松屋叢考一〕三樹考

今の世神事に用るさかきは、和名抄に柃漢語抄云、比佐加木といへるもの也、これに三種あり、一種は上品にて、葉もつやゝかなり、その狀水木犀に似て、細實結り、初は青色、熟れば黑色なり、武藏國にて、左加木とも山左加木ともよぶ、一種は下品なり、俗に比左加木とも比左々木ともよぶ、西